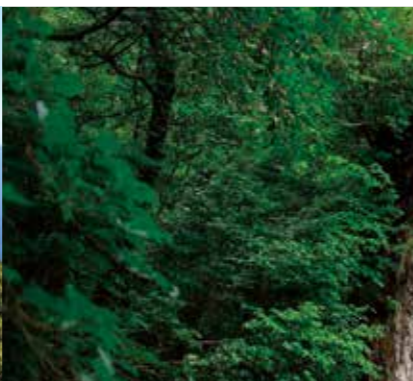


Yakushima World Natural Heritage 30th

屋久島が“世界の宝”となった理由

屋久島は、県本土最南端から南方約60kmの海上に位置する、日本で5番目に大きい島です。九州最高峰の宮之浦岳をはじめ、1000メートルを超える山々が連なり、「洋上アルプス」とも呼ばれます。「ひと月に35日雨が降る」と言われるほど多くの雨が降り、年間降水量は、日本の平均の2倍をはるかに上回ります。

平成5年12月、島全体の約20%となる島の中央部が世界自然遺産に。世界自然遺産は、4つの評価基準（自然美、地形・地質、生態系、生物多様性）のうち、いずれかの条件を満たすことが必要です。屋久島は、自然美（樹齢1000年を超えるヤクスギの原生林が優れた景観を有していること）、生態系（亜熱帯性の植物から冷温帯性の植物まで連続的に変化する植生が見られること）が高く評価され「世界の宝」となりました。



屋久島の自然と人が“共に生きる”ための地域づくり

屋久島の豊かな自然と、その中で何千年にもわたって積み重ねられてきた自然と人との関わり（環境文化）。これらを手がかりとして生まれた、「屋久島環境文化村構想」は、屋久島の自然を保護するとともに、自然と人が共生する個性的な地域づくりを目指しています。

この構想を推進するため、平成5年3月に設立された屋久島環境文化財団を中心にさまざまな活動を行ってきました。中でも、地元の話り部が歴史や文化、産業など、集落の見どころを案内する「里めぐり」は、地元の人々と触れ合うことができ、屋久島を訪れる方々に大変人気です。

県でも、地域の若者が、経験豊富な高齢者等に、自然と共生する暮らし方に関する話を聞く「環境文化の聞き書き」を実施。そこで学んだ知恵や技術を後世に伝えていくための取り組みを行っています。

巻頭特集

屋久島

世界自然遺産登録

30周年 

深い緑に包まれ、生命を育む島・屋久島。平成5年12月に、日本で初めて世界自然遺産に登録されてから、30周年を迎えます。太古の歴史と生命の息吹を感じさせる縄文杉や、九州最高峰の宮之浦岳を筆頭に連座する山々など、その特異な自然景観は、多くの人々を魅了し続けています。

これまでの30年、たゆまぬ努力で守られてきた美しい自然。未来の子どもたちに、このかけがえのない「世界の宝」を受け継いでいかなければなりません。

